

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症 例 概 要 利用者：100歳代 女性 要介護 3

病名：廃用症候群（右大腿骨転子部骨折術後）

利用サービス：入所

経過：令和7年3月に自宅で転倒、右大腿骨転子部骨折にて観血的整復固定術施行、当院回復期病院に令和7年4月入院。歩行は歩行補助具を使用して見守りにて出来るようになり、老健を経て自宅退所を目指すため、6月に入所となった。

内 容

入所時は周囲に注意が向き、誘導が必要な状態であった。サークル歩行器ではスピードコントロールが出来ず、転倒のリスクが高かった。そこで、目標を「適切な歩行補助具を選定し日常生活動作が安全に行える」とした。

毎日のリハビリでは、全身の筋力強化や輪投げ動作練習を通して集中力の持続やバランス強化に努めた。また、認知面の低下防止目的で食堂に離床し、集団体操や塗り絵、工作などの手作業への定期的な参加を促した。

最終的に方向転換等がしやすく安定性のある前腕支持型の歩行車に変更し、方向転換もスムーズとなった。食べる事が好きで、なんでも良く食べ、納涼祭や運動会などの行事も楽しんでいた。

敬老祭では笑顔で百一賀の賞状を受け取り、ご家族やスタッフと楽しまれ、御神輿担ぎの誘いには躊躇なく立ち上がり、笑顔で一緒に担ぐことが出来た。

超高齢であっても、安全を考慮しつつ自主性を重視しながら生活全体を多職種でサポートした結果、身体能力や認知面の向上も認めることが出来た症例であった。

●セラピスト：歩行訓練から起立着座練習、輪投げ動作など日常生活動作全般の身体機能の維持取り組んで、認知面含めた向上が認められるまでになった。

●看護師・ケアワーカー：常に声掛けをすることにより、積極的に塗り絵や集団体操へ参加されるようになった。また、リハビリパンツから布パンツへの変更にも根気よく取り組んで成功した。